

上部消化管(食道・胃・十二指腸)検査のススメ

胃の異常を見逃さない！

胃カメラは、より精密な検査ができ、病変を早期に発見できます。

胃の健康状態をしっかりと確認したい場合は、バリウムより胃カメラを選択してください。

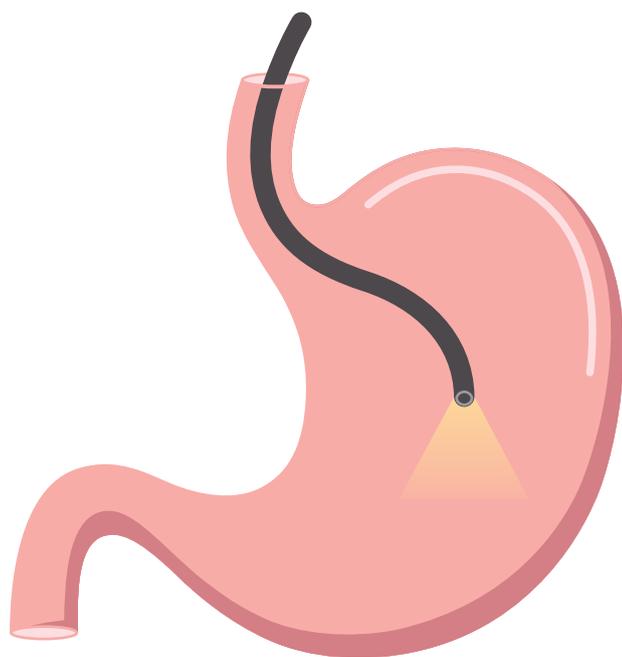
X線(バリウム)検査と内視鏡検査について

胃部X線(胃バリウム)検査で異常な所見を認めた場合は、内視鏡検査での精密検査を行うことになります。

上部消化管X線(胃バリウム)検査は、飲んだバリウムを粘膜表面に薄く広げて、レントゲン写真を撮影して、胃や十二指腸の形や粘膜の凹凸を観察します。**バリウムはさっと流れるため、食道の小さな病変や平坦な病変を見つけるのは困難です。**

上部消化管内視鏡(胃カメラ)検査は、小型のカメラを装着した管を口または鼻から挿入し、食道・胃・十二指腸を直接観察します。

内視鏡検査では、粘膜の微細な変化を鮮明に観察できるため、凹凸の少ない病変や出血なども確認できます。また、粘膜に異常が見られた場合、小さい組織を採取して(生検)、組織診断を行うことができます。



X線(バリウム)検査と内視鏡検査 それぞれのデメリット

X線(バリウム)検査では、少量ですが放射線被爆があります。偶発症として、バリウムの誤嚥や検査台からの転落などがあります。

内視鏡検査では、直接管を体内に挿入することによる身体の負荷(挿入時の嘔気や苦痛、心拍や血圧の上昇など)があります。

偶発症としては、ほとんど起きませんが、粘膜の傷害・裂傷、前処置の薬でのアレルギー反応、ショックなどがあります。

経鼻内視鏡検査について

経鼻内視鏡は、経口内視鏡より管が細径であるため、挿入時や検査中の辛さが軽減するため、鎮痛剤を使用する必要がありません。しかし、鼻の構造によっては挿入が困難だったり、挿入による鼻出血のリスクや痛みを伴うことがあります。

最近の経鼻内視鏡は改良が進み、精度も上がっていますが、経口内視鏡検査に比べ、カメラが小さい、大きな病巣の切除ができないなど劣る面があります。

健診コースに胃部X線(バリウム)検査が含まれている方は、料金3,850円(税込)で胃内視鏡検査への変更を承ります。予約日の2週間前までにお早めにお申し込みください。

※ ご加入の健康保険組合・会社によっては、料金が異なる場合がございます。予約時にご確認ください。